

私の探鳥地（27）（野鳥だより 97号 1994年4月）

くちなしぬま  
口無沼（苫小牧市）

佐藤 正秀

苫小牧には魅力あるフィールドがたくさんあります。

その中で私は、口無沼をフィールドとしています。場所は樽前山と苫小牧市街の間に位置しており、市街地より10kmの所にあります。

昭和29年の洞爺丸台風の風倒木を処理する為整備された所で多い時には200人が生活していたそうです。

名前の由来は「シリナシ沼」水の出口がないので始めはこのように呼ばれていましたが品がないとの事で、口無沼となったようです。

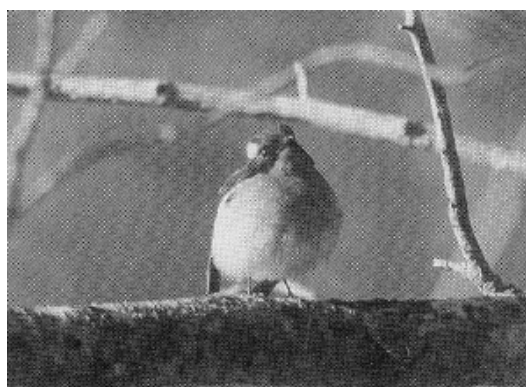


口無沼周辺地図

奥に入ると、鹿も多く「ピー」と甲高い警戒音を聞く事が出来、又幾度か熊の足跡を見かけた事があります。

春は、ミヤマエソレイソウが一面真白に咲き豊富な山菜も芽を出します。この時期（5月中旬～6月上旬どこも同じですね）がこのフィールドの最高の時です。

大形ツグミ、ヒタキ、カラが周りに寄って来るので双眼鏡無しで観察が可能となります。また、木の葉が出ていないので写真撮影に最適で今年はムギマキを撮らせてもらいました。



ムギマキ

秋が深まると水鳥の種類と数が一段と増し、冬には一部結氷しない所に集り春を待ちま

す。最近水鳥が極端に減っており原因は 2 年前より狩猟が解禁になったためです。観察中に鉄砲の音を聞いたり、鳥の解体した跡を見かけます。

この場所は苫小牧営林署の方が散策路の整備、植物の名札、看板と自然重視した管理を行っているのに鉄砲を撃っていい場所になっているのは、行政の許認可のあり方に疑問を感じる。昨今どのフィールドに行ってもマナーの悪さが目立ち「人が多くなり鳥の数が減った」と聞かれる。このフィールドでも金魚が異常繁殖し、これを釣る人、カヌーに乗って網ですくう人など休日になると大勢の人が来ます。その後に残るのはゴミの山です。このフィールドを悪くも書きましたが、通えば都とでも言うか気になって来てしまうフィールドです。

皆様も近くに来た節には連絡下さい。御案内致します。